



町産のお肉が給食に登場!



「おいしい!」と話す児童たちに、生産者もにっこり(11月29日・赤石小)



交流を深めながら会食した生産者と児童たち(11月10日・日詰小)

町は、11月を「紫あ波せお²⁹推進月間」として、町産の肉にこだわった学校給食を提供しました。11月10日には「しわ豚」を使用した献立が登場。日詰小学校(伊東雅美校長)に3人の生産者が訪れ、3年生の児童と会食しました。生産者の七木田一也さんは「大切に育てた豚です。命をいただくことに感謝して、風邪をひかない体作りのためにもおいしく食べてほしい」とあいさつ。佐藤美貴さんは「しわ豚を使いたいものこ汁がとてもおいしかったです」と笑顔を見せました。また、29日は「もちもち牛」を使用した献立が登場。生産者3人が赤石小学校(妻田篤校長)を訪れ、3年生の児童たちと一緒にもちもち牛のシチューなどの給食を味わいました。

元日本代表サッカー選手たちとふれあい

古館小学校(橋本昌好校長)で10月28日、ドリームサッカークリニックが開かれました。6年生84人が、元日本代表として活躍した金田喜稔^{のぶとし}さん、三浦淳寛^{あつひろ}さん、鈴木隆之^{たかゆき}さんなど5人の講師とのPKやミニゲームなどに挑戦し、ふれあいを楽しみました。大町陽斗^{はると}君は「元日本代表選手とサッカーができたことは宝物になりました」と目を輝かせていました。



講師陣を相手に行われたミニゲームでは、シュートを決める児童もいました



児童たちが、認知症への理解を深め、自分の祖父母や近所の高齢者への思いやりの心を育むことを目的に行われました

児童たちが「認知症」について理解深める

片寄小学校(齋藤康子校長)の5・6年生22人は、10月27日に「孫世代のための認知症講座」を受講しました。講師を務めたグループホームゆいっこ(志和地区)の作山幸雄^{あきお}所長が認知症の種類やその症状などについて具体例を交えながら講話。6年生の松岡和奏^{わかな}さんは「今年グループホームで職場体験をして、認知症の人との接し方を学びましたが、具体的な症状などを知ることができてよかったです」と学びを深めた様子でした。

地域全体で災害に備える 2つの訓練を実施



土のう作りに挑戦



防災マップを使って、危険箇所について情報交換を行いました

町は10月30日、水分公民館と水分小学校で水分地区大雨災害避難訓練を行いました。水分地区の住民約150人が、土のう作りや119番通報などを体験。災害時の心構えや関係機関の協力体制などを確認しました。当日は水分小学校児童有志11人による水分少年消防クラブの結成式も行われました。5年生の平沢拓人君は「はんでんを着て、気が引き締められました。消防団の方々と一緒に防火防災の協力ができるよう頑張りたいです」と意気込みを語りました。



町は11月13日、特別養護老人ホームにいやま荘で火災防御訓練を行いました。訓練には消防団、婦人消防協力隊連合会、にいやま荘の入所者と職員、消防署など約180人が参加。消防車両21台による火災防御訓練のほか、避難訓練や初期消火訓練など7項目の訓練が行われました。災害時の対応を確認し、日頃の防火意識向上につながる充実した訓練になりました。

災害時の動きを確かめながら避難訓練

町ボランティア連絡協議会が厚生労働大臣表彰を受賞

町ボランティア連絡協議会(瀬川智子会長)は、11月11日にメルパルクホール(東京都港区)で行われた全国社会福祉大会で厚生労働大臣表彰を受賞しました。同協議会は平成2年に設立。「いこいの家」の運営やふれあいバザーなどの活動を続けてきました。瀬川会長は「個人では難しいことも協力し合い、全ての人が住みやすい町づくりに貢献できれば」と今後の展望を語りました。



熊谷町長(右)のもとを報告に訪れた瀬川会長(左)(写真は11月14日)

卵料理で名誉町民を学ぶ わんぱくまつり

日詰公民館主催の第22回わんぱくまつりは、11月15、16、18日の3日間、日詰小学校で行われました。日詰地区先人顕彰会の内城弘隆会長から名誉町民で毎日卵を産むニワトリを開発した橋本善太についてお話を聞いた後、地域の方々と一緒に卵とそばろのスティックおにぎりやみそ汁などの調理に挑戦。入江圭吾君と小原奈々さんは「皆で協力しながら作ることができていい経験になりました。地域の皆さんと一緒においしく卵料理をいただきました」と満足の表情でした。



3年生78人が、3クラスに分かれて受講しました